

## 取組：「言語活動の充実」と「指導と評価の一体化」の促進

## 当該地域の特性等を踏まえた課題分析の視点

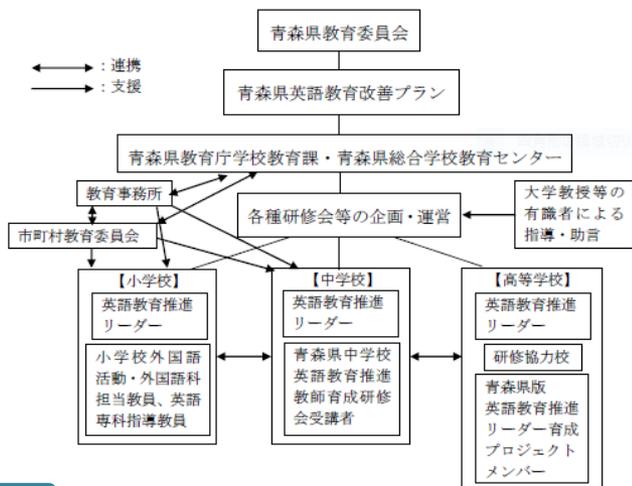
- 【課題】授業における生徒の英語を用いた言語活動時間の割合が目標値に達していない。（令和元年度 中学校目標75%に対し達成66% 高等学校65%に対し達成41%）
- 【要因】学習した語彙・表現を用いたアウトプット活動及び既習事項を繰り返し活用する場面の設定と、パフォーマンステストの実施及びCAN-DOリスト形式の学習到達目標の適切な運用を通じた「指導と評価の一体化」に対する意識が希薄である。

## Plan

## 取組計画

- 研修の実施 ○校種ごとの指導力向上に向けた支援
- 中核となる教員の育成 ○関係機関と連携した指導体制の構築

## 体制



## Do

- 県総合学校教育センターにおける研修  
言語活動の充実、授業改善、教師の英語力向上等を目的とした研修の実施
- 小学校外国語活動・外国語科担当教員、英語専科指導教員研究協議会  
指導に係る現状と課題について協議し、授業改善に資する
- 小・中学校外国語教育充実支援訪問  
指導に係る現状と課題について指導・助言を行い、指導の充実を図る
- 青森県中学校英語教育推進教師育成研修会（中学校）及び青森県版英語教育推進リーダー育成プロジェクト（高等学校）  
外国語教育を推進する上で次世代の中核的な役割を担う若手教員・中堅教員を育成
- 研修協力校における研究協議会（高等学校3校）  
アウトプットを重視した授業モデルの普及を目指し、大学教授等の有識者からの指導・助言を受け多様な活動事例及び指導のプロセスを共有

## Check

## ■ 中学校（数値は英語教育実施状況調査における集計値）

項目	R元 → R3	成果
①CAN-DOリスト形式の学習到達目標を公表している学校の割合	8%→19% +11ポイント	上昇したが引き続き改善に向けた働きかけが必要である。
②CAN-DOリスト形式の学習到達目標の達成状況を把握している学校の割合	27%→46% +19ポイント	上昇したが引き続き改善に向けた働きかけが必要である。
③授業における生徒の英語による言語活動時間の割合	66%→60% -6ポイント	下降しており、言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成するよう促す。

## ■ 高等学校（数値は英語教育実施状況調査における集計値）

項目	R元 → R3	成果
①授業における生徒の英語による言語活動時間の割合	41%→38% -3ポイント	下降しており、言語活動の意義・必要性についての認識を促す。
②パフォーマンステストの実施状況（スピーキングテストとライティングテストの両方を実施している割合）	27%→30% +3ポイント	徐々にではあるが着実に上昇している。引き続き実践事例の共有を図る。
③授業における教員の英語使用状況	31%→30% -1ポイント	停滞しており、授業を実際のコミュニケーションの場面とする意識付けが必要である。
④ICT機器を活用した学校の割合	60%→89% +29ポイント	数値は向上した。今後は質的向上に向けて取り組む。

## Action

## ■ 中学校

項目①、②については、県義務教育教科等担当指導主事研究協議会を通じて県教育委員会と市町村教育委員会の担当指導主事で連携して向上に取り組む。項目③については、外国語教育充実支援訪問により教員の授業改善を支援する。

## ■ 高等学校

項目①、③については、授業改善における重点事項と位置づけ、取り扱い事項として焦点化して研修計画を作成したり、学校訪問指導の際に優先度の高い項目として指導・助言に当たることによって改善を図る。項目②、④については、研修会や県高等学校教育研究会外国語部会研究大会等で効果的な実践例や先進的な事例を共有することによって更なる向上を目指す。

